

ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会
東京事業部会議事要旨(案)

1. 開催日時 平成23年9月30日(金)10:00~12:00
2. 開催場所 日本環境安全事業(株) 本社5階会議室
3. 出席者 永田主査、細見委員、益永委員、渡辺委員、
(オブザーバー)東京都 環境局 土屋課長
4. 議事(非公開) (1)東京PCB産廃処理施設における操業状況について
事務局より資料1に基づき、平成23年度上期の施設、環境測定結果、運転及び設備における対策・改善状況、運転トラブルの状況、作業従事者の労働安全衛生、ヒヤリハットの状況、運転廃棄物、教育・訓練の実施状況、東日本大震災の対応状況、夏季の電力使用制限への対応について説明を行なった。主な意見は以下のとおり。

①施設の稼働状況

○PCB油の受入が少なかった理由は、

(J)年度当初の計画でも少なかった。これは、保管事業者との契約が偏ってしまったことや、保管業者と抜油の専門業者間の調整がうまくいかなかったことによります。

②排出源のモニタリング及び敷地境界測定結果

○排水の DXNsが比較的高い理由は(基準5pgTEQ/lに対し4.1pgTEQ/l)

(J)冷却塔よりきていると考えています。

○大気の DXNsの環境測定方法について

(J)試料採集方法には24時間、1週間サンプリング方法があり、平成18年の事故時に早期にデータを得る必要から24時間サンプリング方法を採用した経緯があり、以降もこの方法で行っていました。他の4事業所は、1週間サンプリングを採用しており、粉じん中のDXNs分析も含め見直しを検討していきます。

③運転及び設備における対策・改善状況

○水熱設備の腐食状況について

(J)温度は、処理液再生熱交換器出口が220℃~240℃で給水再生熱交換器出口が130℃~150℃です。

○NS乾燥装置について

・回収量が30~50増えたとのことだが、この量が、以前、垂れていたと考えてよいか。

(J)床にはではないが、オイルパンにはかなり垂れていたと考えています。

・強く減圧するとNSを逃がしてしまうことはないか。(真空ポンプ出口圧力は。)

(J)確認します。

・概要図に記載の排気量187 m³/min、28 m³/min、6 m³/minの意味は。

(J)187 m³/minは他の系統も含めた、予備洗浄系統としての全体排気量。記載を見直します。

④運転トラブルの状況

○局所排気のPCB濃度高高について

・自立型活性炭設備は必要か。

・各排気系統の風量バランスは適正か、排気変更したところは検証すること。

○亜鉛の下水道排除基準の超過について

(J) 恒久対策として、亜鉛を含まない防錆剤、ライトフィルタのスラッジ処理、軟水使用の見直しなどを検討します。

⑥作業従事者の労働衛生について

○血中 PCB 濃度の状況について

・増加、横ばい、減少の定義を明確にすること。(他事業所との整合をとる。)

・ポートグローブ(PG)の点検方法、交換は。

(J) 点検は目視によります。定期交換により管理しています。ストレーナー洗浄装置の PG は3回洗浄で交換することとしました。

・血中 PCB の測定結果が異性体毎に、どの程度下がっているのか把握すること。

⑦東日本大震災対応

・大規模地震の電源喪失時の調査を外部に依頼する予定とのことだが、非常発電機の稼働後 2 時間以内の安全停止は確認されていることは記述しておく。また、非常発電機が稼働しなかった場合については内部で検討できるところは確認すること。